

8 日ロサケ・マス漁業交渉

戦後の北太平洋におけるサケ・マス漁業は、1952年(昭和27年)にマッカーサーラインが撤廃されたことにより、本格的に再開され、公海を主な漁場とし、母船式等により操業が行われていました。

その後、1956年(昭和31年)に結ばれた日ソ漁業条約により、操業海域が規制されるとともに、日ソ間でのサケ・マス漁業交渉が開始されましたが、1977年(昭和52年)の200海里漁業専管水域の設定により、操業条件はより厳しいものとなりました。

1992年(平成4年)には、「北太平洋における遡河性魚類の系群の保全のための条約」が結ばれ、北太平洋公海のサケ・マス漁業が全面的に禁止されたことから、現在、行われているサケ・マス漁業は、日本200海里内での操業とロシア200海里内での操業のみとなっています。

日本200海里内での操業は、日ソ漁業協力協定に基づき設置されている日ロ漁業合同委員会において、協議が行われ、ロシア200海里内での操業は、日ソ漁業協力協定及び日ソ地先沖合漁業協定に基づき、日ロ政府間協議において、協議が行われ、操業条件等を決定しています。

(1) 合意内容

① 日本 200 海里内の漁獲可能量等

ア. 漁獲可能量

年次	H21	H22	H23	H24	H25
漁獲可能量	2,885t	3,055t	2,694t	2,562t	上限なし

イ. 魚種別漁獲可能量

魚種	H21	H22	H23	H24	H25
カラフトマス	2,555t	2,755t	2,394t	2,277t	上限なし
シロザケ	300t	300t	300t	285t	上限なし
合計	2,855t	3,055t	2,694t	2,562t	上限なし

ウ. 漁業協力費

区分	H21	H22	H23	H24	H25
上限	4億2570万円	4億4300万円	3億9100万円	3億7184万円	3億7184万円
下限	3億6400万円	3億8500万円	3億3900万円	3億2294万円	同上

エ. 出漁隻数

区分	H21	H22	H23	H24	H25
根室隻数	32隻	31隻	29隻	29隻	29隻
北海道隻数	81隻	81隻	78隻	72隻	62隻

■ 日ロサケ・マス漁業交渉における漁獲割当量及び漁業協力費の推移

(単位:トン、億円)

年次	回数	割当量	協力費	年次	回数	割当量	協力費	年次	回数	割当量	協力費
昭和32年	1	120,000	-	昭和51年	20	80,000	-	平成7年	39	5,123	7.5
昭和33年	2	110,000	-	昭和52年	21	62,000	-	平成8年	40	5,123	7.5-6.9
昭和34年	3	85,000	-	昭和53年	22	42,500	17.6	平成9年	41	5,123	7.5-6.7
昭和35年	4	67,500	-	昭和54年	23	42,500	32.5	平成10年	42	5,123	7.5-6.7
昭和36年	5	65,000	-	昭和55年	24	42,500	37.5	平成11年	43	5,370	7.75-7.03
昭和37年	6	115,000	-	昭和56年	25	42,500	40	平成12年	44	5,920	8.59-7.03
昭和38年	7	120,000	-	昭和57年	26	42,500	40	平成13年	45	5,170	7.7-6.7
昭和39年	8	110,000	-	昭和58年	27	42,500	42.5	平成14年	46	4,100	6.1-5.25
昭和40年	9	115,000	-	昭和59年	28	40,000	42.5	平成15年	47	4,100	6.15-5.45
昭和41年	10	96,000	-	昭和60年	29	37,600	42.5	平成16年	48	3,660	5.48-4.88
昭和42年	11	108,000	-	昭和61年	30	24,500	35	平成17年	49	3,560	5.33-4.74
昭和43年	12	93,000	-	昭和62年	31	24,500	37	平成18年	50	3,340	5-4.45
昭和44年	13	103,000	-	昭和63年	32	17,668	33.5	平成19年	51	3,175	4.76-4.04
昭和45年	14	90,000	-	平成元年	33	15,000	33.5	平成20年	52	3,005	4.36-3.71
昭和46年	15	95,000	-	平成2年	34	11,000	31.5	平成21年	53	2,855	4.25-3.64
昭和47年	16	87,000	-	平成3年	35	9,000	28.4	平成22年	54	3,055	4.43-3.85
昭和48年	17	91,000	-	平成4年	36	2,819	4.4	平成23年	55	2,694	3.91-3.39
昭和49年	18	83,000	-	平成5年	37	4,819	7.5	平成24年	56	2,562	3.71-3.22
昭和50年	19	87,000	-	平成6年	38	4,819	7.5	平成25年	57	上限なし	3.71

(注) 平成3年以前の数値は、公海分を含む

② ロシア 200 海里内の漁獲可能量等

ア. 漁獲可能量

年次	中型船				小型船	合計
	計	全鮭連	北友水産	ホクヨー	道鮭連	
H21	4,480t	1,680t	1,680t	1,120t	2,400t	6,880t
H22	5,840t	1,752t	2,920t	1,168t	2,607t	8,447t
H23	2,628t	876t	1,168t	584t	2,928t	5,556t
H24	3,796t	1,460t	1,460t	876t	3,275t	7,071t
H25	2,520t	1,080t	1,260t	180t	2,850t	5,370t

(資料:水産庁)

イ. 水域・魚種別漁獲可能量(平成 25 年)

水域	魚種	合計	シロザケ	ベニサケ	その他※
		1区	中型 小型 計	1,260.0t - 1,260.0t	460.6t - 460.6t
2区	中型 小型 計	- 516.8t 516.8t	- 450.3t 450.3t	- 38.0t 38.0t	- 28.5t 28.5t
2a区	中型 小型 計	- - -	- - -	- - -	- - -
3a区	中型 小型 計	1,260.0t 2,333.2t 3,593.2t	546.0t 1,512.3t 2,058.3t	630.0t 739.2t 1,369.2t	84.0t 81.7t 165.7t
合計	中型	2,520.0t	1,006.6t	1,400.0t	113.4t
	小型	2,850.0t	1,962.6t	777.2t	110.2t
	計	5,370.0t	2,969.2t	2,177.2t	223.6t

※ その他 …… カラフトマス、ギンザケ、マスノスケ

ウ. 有償入漁料

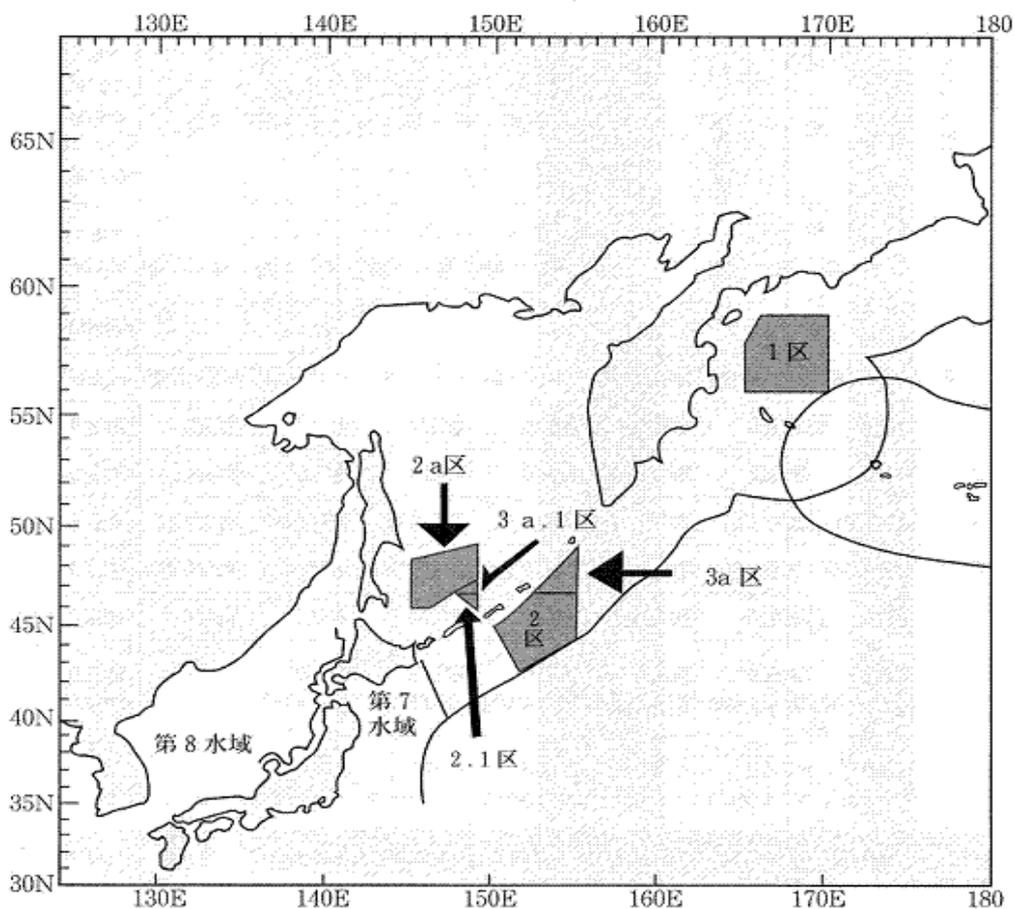
年次	H21	H22	H23	H24	H25
小型	300.30 円/kg				
中型	298.60 円/kg				

エ. 出漁隻数

年次	H21	H22	H23	H24	H25
小型	19 隻(16 隻)	19 隻(16 隻)	19 隻(16 隻)	20 隻(17 隻)	19 隻(16 隻)
中型	14 隻(12 隻)	14 隻(12 隻)	14 隻(12 隻)	13 隻(10 隻)	14 隻(12 隻)
合計	33 隻(28 隻)	33 隻(28 隻)	33 隻(28 隻)	33 隻(27 隻)	33 隻(28 隻)

※()内は根室船籍数

(2) 日ロサケ・マス漁業交渉操業区域図



※平成25年は、漁業交渉の遅れにより臨時的に3a区及び2区の操業水域を東へ1度拡大されています。
(北緯49度以南、東経157度以西へ拡大)